

「 得た知識を実行に 」

埼玉県 朝霞市立朝霞第二中学校 2年 ^{はやし}林 ^{かすみ}香澄

毎年、梅雨が明けて少しすると一気に暑くなり、台風が発生して日本各地に被害を及ぼす。しかし今年は、例年より長引いた梅雨の末期に、記録的な激しい雨が降り続いた。その結果、特に長く、激しい雨が降った九州地方や岐阜、長野を中心に土砂災害をもたらしたのである。令和2年7月豪雨だ。私は、その様子をテレビのニュース番組で見っていた。画面は一面にごった茶色だった。家屋が跡形もなく崩れ落ち、至るところに倒木や、流木が散乱していた。中継でつながれていたのは熊本。私の住む埼玉県からは遠く離れた場所であったが、もし私や私の家族、友達が巻き込まれていたか考えると他人事ではないと感じた。大雨で、私の住む地域の川が氾濫直前になったり、少し山のような所が崩れたりしたことはあったが、そこまで危機的に感じたことはなかったので、今まで持っていた「よく分からないし、関係ないだろう」という考え方は改めるべきだと思った。

もう1つ、災害について考えさせられた出来事がある。それは、山間部での発見と、学校での学習である。昨年の夏に、私は家族と山梨県の河口湖を訪れた。山と山に囲まれた道を目的地まで車で移動しているとき、砂防ダムを見つけた。小学生のときにも、山地を訪れたとき、それに似たようなものを何度か見かけたことがある。だが、そのときは「砂防ダム」という施設があることを知らず、ただ岩や石をためている段々があるとしか認識していなかった。しかし、小学校高学年や中学生になってから、理科や社会で、山間部や低い土地など災害が発生しやすい環境には、施設の設置や情報の提供がされていると学んだ。また、日本列島は、降水量が多いえ山地など急な地形が多かったり、川の傾斜が急であったりするため、土砂災害を引き起こしやすい条件がそろっていることも学んだ。災害が多く発生しやすい地形であること、それにより起こる災害を対策する考えや施設があることを知るだけで、「災害」というものの見方が変わるのだと思った。そして、私の場合は偶然だったが、災害に備えて設けられている施設を自分の目で実際に見てみるのも、おもしろいし、大切だと思う。土砂災害を始め、様々な災害に関する知識や経験を得ることは、安心感を得たり、もしくは正しく怖がったりするために必要なことなので、とても重要なことだと感じた。良い経験をすることができたと思う。

それでは、私が見つけたもの以外にどんな対策があるのだろうか。私は、砂防ダムを見つけたとき、それ以外の設備にはどのようなものがあるのだろうと思い、調べてみた。地面がむき出しになった山の斜面をコンクリートの枠や壁でおさえ固定した「山腹工」や、「溪流保全工」という傾斜が急な川で土砂や水が安全に流れるように石やコンクリートで階段をつくったものがあると知った。他にも防護柵や法枠工など、いくつか設備や工事の種類があると知ったが、私は調べていて特に「森林」との関係に、興味を持った。植樹によりできたものもそうだが、「森林」には木の根による地面の崩壊防止の機能と、上流から流れてきた土砂や流木の捕捉の機能があるそうだ。また、落ち葉が分解されてできた腐葉土には、雨水を蓄えるはたらきがあるという。管理や整備をしなければいけない点や、木の根より深い層から崩れるときには効果がない点などの難点はあるが、被害を少しでも小さくすることができるこの方法はとても良いものだと感じた。コンクリートの設備に比べて景観が整うところも良いところだと思った。

しかし、これらの設備の設置は自分ではできない。そこで、自分でも取り組めることを考えてみた。まずは避難道具をそろえ、避難経路を確認、実際に歩いてみるのが大切だと思う。地域や災害の種類ごとに作成されているハザードマップで自分の住む地域の特徴を知り、周りにある避難所も把握しておくことができる。私が住む地域は高台だが、通う中学校は川や少し盛り上がった山のような地形がある低い土地なので、これを実行し、いざというときに備えている。また、実際に避難経路を歩いて危険だと思ったところにはチェックをして迂回ルートを確認することができた。2つめは家族と避難場所を確認しておくことだと思う。どんな災害でもそうだが、連絡が取れないときのために色々なことを決めておいた方が良いと感じた。3つめは知識を得ておくことだと思う。

令和2年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

避難するまでの間、また、避難するときにより良い選択をして実行するのに役立つと思ったからだ。

私は、土砂災害は完全に防ぐことができなくても被害を小さくとどめることはできると思う。そのためには、知識を得て、より良い行動を実行に移すことが大切だと思った。